

ふるさと梨ヶ原・落地 文化財散策マップ

〈上郡町教育委員会〉

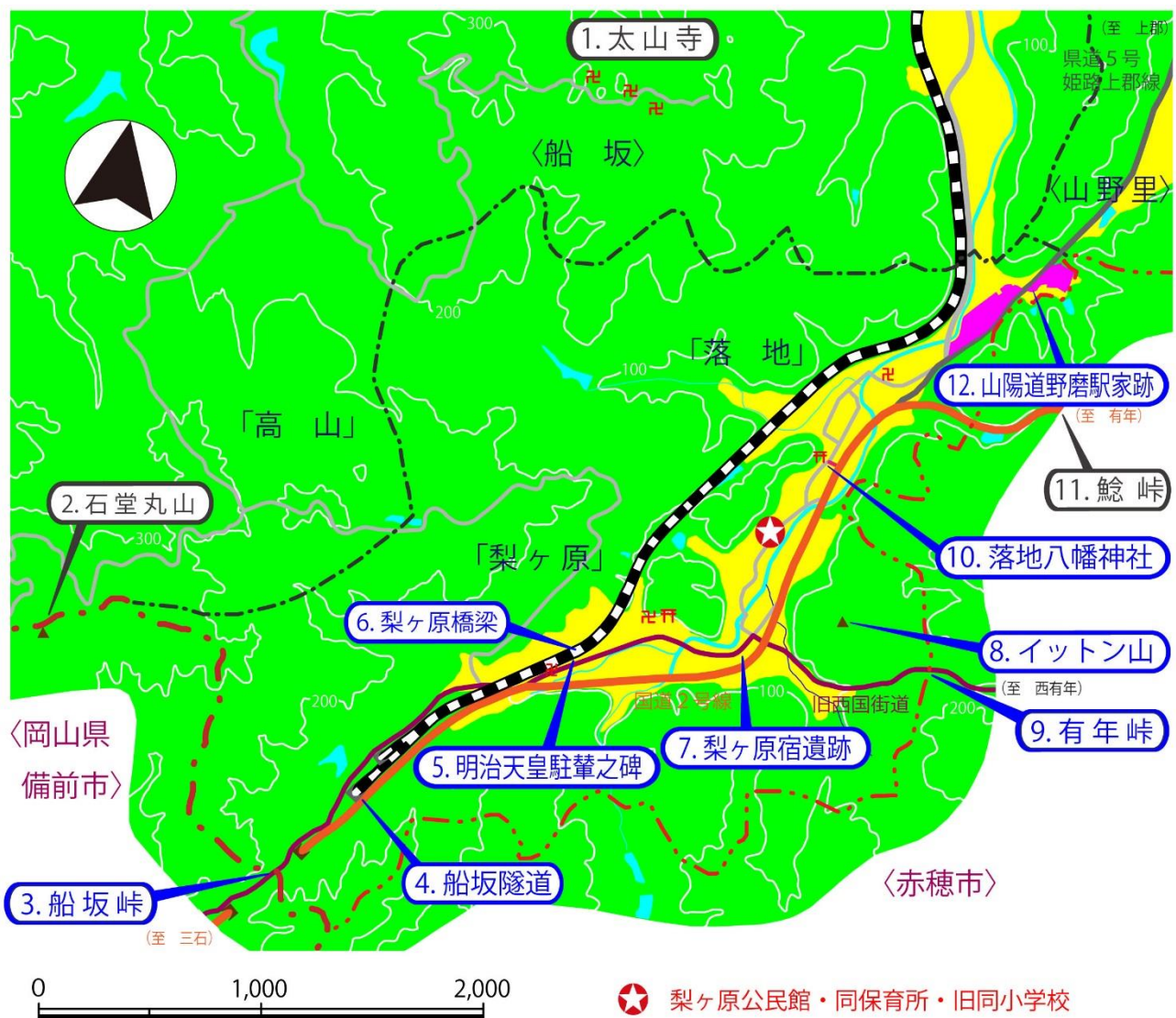
☆ はじめに ☆

上郡町の梨ヶ原・落地は古代から現代に至るまで、東西交通の要衝地でした。

古代山陽道の「野磨駅家」(国指定史跡)が置かれ、中世山陽道には梨ヶ原に宿が開かれたとみられます。近世には有年峠を越えて西国街道が通過しています。

近代になると、馬車などに対応して船坂峠などの国道が整備され、鉄道が敷かれて橋梁や隧道が造られるなど、現在までその重要性は変わりません。

落地・梨ヶ原には、これら交通の歴史にまつわる史跡などの文化財が多くのかかれており、地域の特色となっています。



1. 太山寺 ※上郡町高山 ◆ ☆ から北西約 2.1km ◆ 【県文化財・鰐口^{わにぐち}】

奈良時代の僧・行基^{ぎょうき}の開山と伝えられる山岳寺院です。本堂の鰐口には応永 19 年（1412）の刻銘があり、昭和 45 年（1970）、兵庫県の有形文化財（工芸品）に指定されています。

2. 石堂丸山 ※上郡町高山 ◆ ☆ から南西約 3.3km ◆

山頂の岩で、謡曲「刈萱^{かるかや}」に登場する石堂丸が切腹したと伝えられています。

3. 船坂峠 ◆ ☆ から南西約 2.7km ◆



古代・中世の山陽道、近世の西国街道が通り、国道 2 号線・JR 山陽本線のトンネルが岡山県へと通じる船坂峠は東西交通の要衝です。

『太平記』にも、赤松勢と鎌倉幕府勢攻防の舞台として描かれています。

船坂峠と県境碑（道路右側）

4. 船坂^{ずい どう}隧道 ◆ ☆ から南西約 2.2km ◆



山陽鉄道（後の JR 山陽本線）の敷設に伴い、明治 24 年（1891）に最初の隧道（後の上り線）が、明治 34 年（1901）に南側の下り線が開通して複線化しました。戦後、北方に新船坂トンネル（上り線）が開通して隧道の上り線は廃止、下り線は電化されて現在も使用されています。

北側の旧上り線が日本の近代化土木遺産に、南側の下り線が兵庫県近代化遺産にとりあげられています。

現在の船坂トンネル（下り線）

5. 明治天皇駐輦之碑 ちゅううれん ◆ ☆ から南西約 1.0km ◆

明治 18 年（1885）、明治天皇が西国巡幸の帰途、馬車で船坂峠を越えて梨ヶ原を通過した際に、石碑の地にあった民家で休憩しました。

巡幸に先立つ明治 16 年（1883）には、船坂峠を人力車や馬車が通れるよう、船坂峠を旧道から約 14m も切り下げ、新道が建設されています。



明治天皇駐輦之碑



JR 山陽本線の梨ヶ原橋梁

6. 梨ヶ原橋梁 ◆ ☆ から南西約 1.0km ◆

明治 23 年（1890）、山陽鉄道によって築られました。レンガ造りのアーチ橋で、線路に対してトンネルが斜行した特異な構造で、兵庫県近代化遺産にとりあげられています。

7. 梨ヶ原宿遺跡 ◆ ☆ から南約 600m ◆



近世西国街道の間の宿となった集落とその周辺の耕地がその範囲となります。

平成4年度の発掘調査によって、中世の焼物や漆器など、遠隔地からもたらされた遺物や、多数の建物跡や井戸跡などの遺構がみついています。

中世の史料に「梨原商人」とあり、「宿」の地名もこのことから、中世山陽道に形成された「梨原宿」の一部とおもわれます。

梨ヶ原宿遺跡と船坂峠方面遠望（東上空から）

8. イットン山 ◆ ☆ から南東約 500m ◆



山上にあった六萬坊という寺が兵火で失われたという伝承がのこり、それを由来として、梨ヶ原では、お盆に山頂で万灯を点して死者の霊を供養する行事がありました。

集落手前の梨ヶ原宿遺跡と背後のイットン山（西から）

9. 有年峠 ◆ ☆ から南東約 900m ◆

近世の西国街道が峠を越えて、東の有年宿へと通じていました。「播磨箱根」ともいわれ、交通の難所でしたが、西国大名の参勤交代など、多くの人々に利用されてきました。

今は山道に往時の名残をとどめています。

萩藩が作成した「行程記」の絵図にも有年峠を越える西国街道が描かれ、街道が「宿」を経て梨ヶ原の集落東端にかかる部分には一里塚も描かれています。

10. ^{おろち} 落地八幡神社 ◆ ☆ から北約 350m ◆ 【町天然記念物・ムクノキ】



落地八幡神社境内のムクノキ

神社の由緒によると、神話でスサノオノミコトが倒したヤマタノオロチの怨霊を鎮めるため、鎌倉時代に村名を大蛇（落地）として、武神である八幡神を祀ったのがその起りといわれています。

境内のムクノキは、昭和 61 年（1986）に町指定天然記念物になっています。

11. ^{なまず} 鯰 峠 ※赤穂市西有年 ◆ ☆ から北東約 1.4km ◆

明治 16 年（1883）に有年峠越えの西国街道に替えて国道（後の国道 2 号線）としました。

12. ^{やまのうまや} 山陽道野磨駅家跡 ◆ ☆ から北東約 1.7km ◆ 【国史跡】



駅家とは、古代律令国家によって整備された官道の中継施設で、官道を通る役人や外国使節の馬の乗り継ぎ、宿泊等に用いられました。

野磨駅家は、都と九州を結ぶ山陽道の駅家のひとつです。発掘調査によって、初期の掘立柱建物跡と後期の礎石瓦葺建物跡がのこされているのがわかりました。また、幅約 10 m の古代山陽道跡もみつかっています。

平成 18 年（2006）に駅家として全国初の、国指定史跡となりました。

発掘された後期野磨駅家・後殿跡